

に力を入れ、目を輝かせながらじつと聞き入り、サビで曲調が変わるのを待っていたかのように表情が緩みました。サビからリズムミカルなメロディーに変化することで興味を持って聞いていました。

すばるの
日常活動
千葉 美帆

Aさん(横地分類B1)は果物や野菜などの写真が並んでいる本を興味深く見ます。また箱が開けられ形が変わったり、本のページがめくられ絵が変化したりするのもよく見えています。完成されていく過程を見ながらできあがりが見たいという活動を行いました。折り紙を少しずつちぎって画用紙に貼り付けると、Aさんは始め職員の手の動きだけを見ていました。折り紙を縦に破る手の動きや、ちぎった折り紙を画用紙に貼り付けている職員の手の動きを目で追っていました。折り紙が細長い楕円形の時には、職員の顔や貼り付けている職員の手の動きを見ていることが多く、ちぎった折り紙が貼られていく画用紙に注目はあまりありませんでした。楕円型に貼られたちぎりの絵の上に、魚のヒレ



となる形を緑色の折り紙で付けてくわえていきました。すると、だんだんと画用紙の方に注目する時間が長くなってきました。それまでより目を大きく開け、折り紙が貼り付けられていくところをジッと見つめています。そこに尾びれとなるように、また水色の折り紙を少しずつちぎって貼り付けていきました。Aさんは形作られていく貼り絵を集中して見えています。少しずつ形作られていくものに、完成形を想像しているかのようによく見えています。このときには、職員の手の動きや顔を見ることはありませんでした。最後に小さく丸くちぎった黒い折り紙を、魚の目となるよう貼り付けました。その時、Aさんはハツとした顔で目に力が入りました。それはAさんが知っているものを本の中から見つけたときと同じ表情でした。

た。Aさんにとって、すぐに完成したものが予想できるものではなく、徐々に完成したものが見えてくるものが良いようでした。Bさん(A1)は、近くで職員同士が会話をしたり、他の利用者へ話しかけたりしているのじつと動きを止めて聞いている様子。語りかけの時には色彩のコントラストがはっきりとした挿し絵をよく見えています。挿絵の色がはっきりとした本で、リズムミカルな擬音語が出てくる語りかけをしました。『しりたがりのこひつじ』という本をBさんに向けて広げ、語りかけをすると、Bさんは本全体を見ていました。その後もページをめくると全体的に見ていますが、白地に赤やオレンジ黄色といったカラフルで色彩豊かな花が出てくると注目していました。また「ひーらひーらばーたばー」という伸びる音が繰り返されるものや「ぱったた、ぱたた」という詰まるような音の体の動きを止め本の方に顔を向けながら耳を澄ませるようじつと集中して聞いていました。語りかけの間は本に顔を向けよく聞いていて、語りかけが終わると本を閉じると集中が切れたようにふっと表情が緩んでいました。

フェスタおおぞら

9月15日(日)に「フェスタおおぞら」を開催いたしました。

模擬店や近隣の福祉施設の方々によるフリーマーケットが開かれたほか、エレベーターホールでは2団体(オカリナ&ピアノ、リコーダー・ピアノ・メロディオン)の演奏が披露されました。また1・2・3号館の各ゾーンでは、ギター独演、チェロ独演、オカリナ同好会の皆様による合奏が披露されました。



当日は、快晴の中多くの方々にご来場いただき、盛況のうちに終えることができました。ボランティアさんや参加いただいた皆様、ありがとうございました。